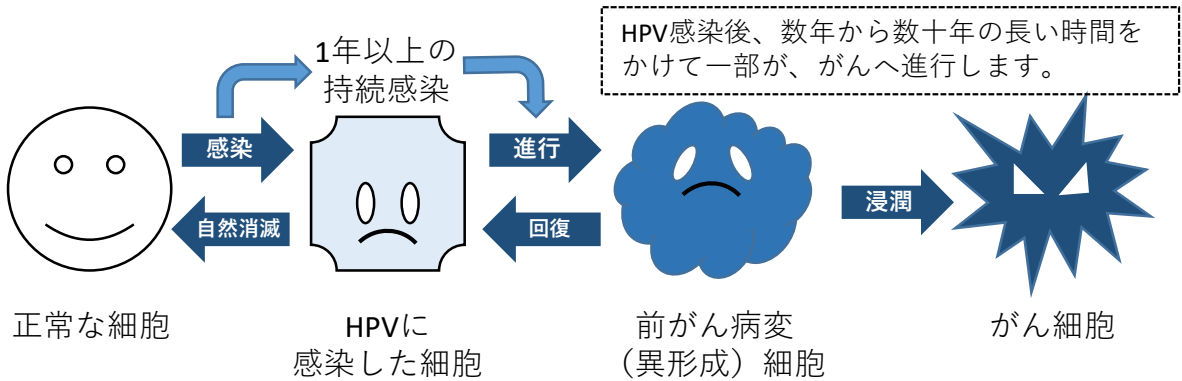




知っていますか？ 子宮頸がんのこと



子宮頸がんの原因はHPV（ヒトパピローマウイルス）というウイルスの感染が原因であることがわかっています。このウイルスは、性的接触のある女性のほとんどに、感染すると言われています。多くは、自然免疫で排除されますが、ごく一部は持続的に感染し、数年から数十年の長い時間をかけてがんになることがあります。



子宮頸がん検診の「HPV検査法」は「湿潤がん罹患率の減少効果がある」というエビデンスに基づき、WHO（世界保健機関）から世界に推奨されています。国立がん研究センター等も「HPV検査が陰性であれば細胞の形に変化が起きていない（正常）、またはすぐには起きにくい」としています。志木市も今までに実施した子宮頸がん併用検診の結果を分析※して同様の結果を得ました。これらのことから、このたび志木市はHPV検査単独法を導入することにいたしました。※平成27年度HPV検査陰性者では、3年後のHPV検査でも98.3%が陰性、さらに3年後も98.6%が陰性でした。つまり、将来のがん化のリスクが少ないことを示します。

がん検診の指針に示されている子宮頸がんの検査

細胞診検査

子宮頸部の細胞に異常がないか調べる検査

検査内容：問診・視診・子宮頸部の細胞診及び内診
対象：20歳以上
受診間隔：2年に1回

HPV検査

がんの原因であるHPV感染の有無を調べる検査

検査内容：問診・視診・HPV検査
※HPV陽性の場合にはHPV検査時の残りの検体を用いて細胞診検査を自動的に行います。（再度検診を受ける必要はありません）
対象：30歳以上
受診間隔：5年に1回

志木市の子宮頸がん検診の対象者

20歳代では一過性のHPV感染が多く、60歳以降ではほとんどHPVに感染することが少ないことから、20歳代と61歳以降の方には細胞診検査を実施し、30歳～60歳の方にHPV単独検査を実施します。検診は自覚症状のない無症状の方を対象にしています。症状のある方は、検診ではなく、保険診療で病院を受診しましょう。

年齢（4月1日時点）	検査方法	受診間隔
20歳代及び61歳以降	細胞診検査	2年間隔
30歳～60歳	HPV検査※ ※陽性の方のみ細胞診検査を実施	5年間隔



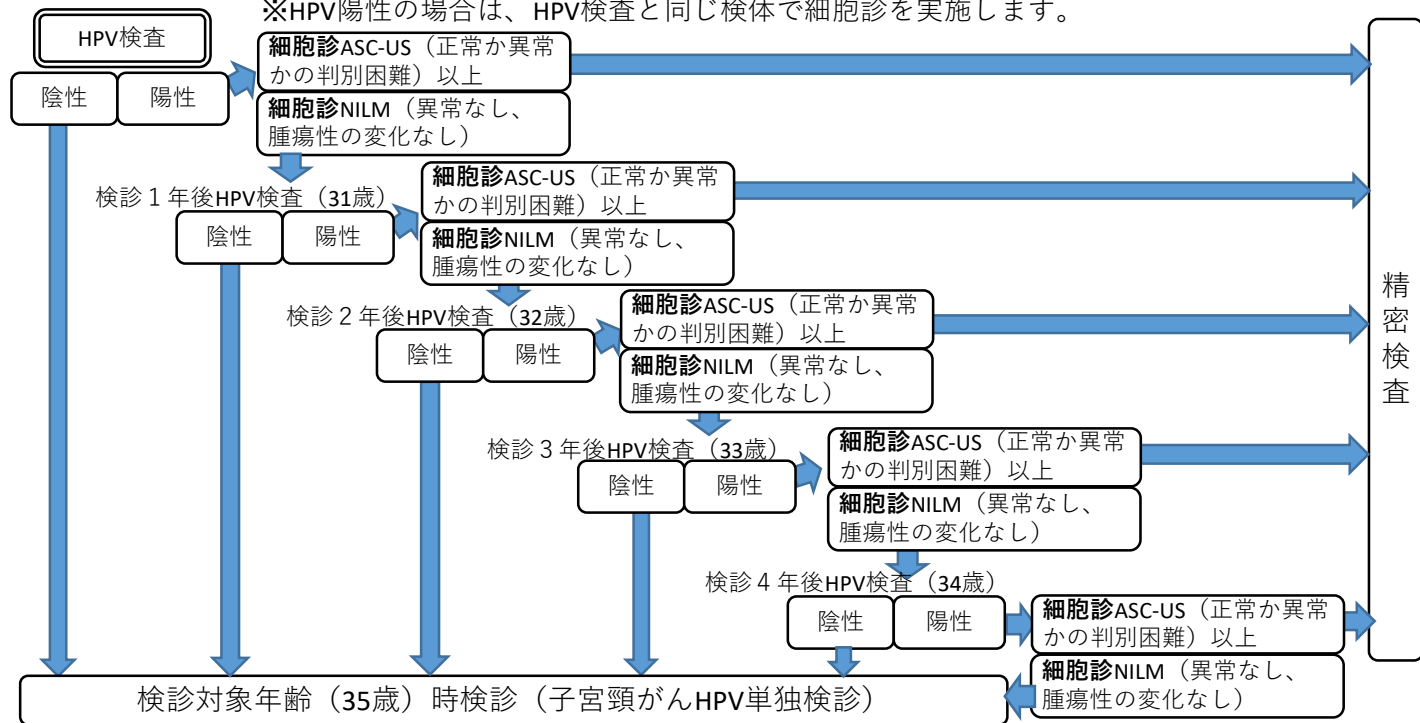
子宮頸がんHPV単独法の結果とその後について

HPV検査結果が陽性の方のみ細胞診検査を実施します。細胞診検査結果が陽性の場合、1年後再びHPV検査の対象になります。検査未受診の場合は、引き続き検査対象となります。対象者には受診券を送付します。

一方、HPV検査が陰性の方は検診対象年齢（4月1日時点で30.35.40.45.50.55.60歳）のときに、次回検診を受けていただきます。

●HPV検査を検診対象年齢（30歳）の時に受診した例

※HPV陽性の場合、HPV検査と同じ検体で細胞診を実施します。



HPVワクチン

HPV感染を予防するワクチンがあります

市HP
「予防接種」



【定期接種】対象年齢（小学6年生から高校1年生相当の年齢）の女性は、公費助成でワクチンを受けることができます。

【キャッチアップ接種】予防接種の積極的勧奨の差し控えにより、対象年齢だった時期に接種の機会を逃した方（平成9年4月2日から平成20年4月1日までに生まれた女性）も、対象年齢を超えて接種を受けられます。

かかりつけ医をもちましょう

子宮頸がん以外にも、女性特有の病気や苦痛に感じる症状等を相談することができます。病気の小さなサインを見逃さず受診しましょう。

こんな症状があったら医療機関へ

- ・ひどい生理痛・不整出血（月経時以外の出血）
- ・月経の異常（周期が長い・短い、経血量が多い）
- ・下腹部の痛み、外陰部のかゆみ
- ・生理前にイライラする（PMS） など



志木市内の子宮頸がん検診実施医療機関

【よつはレディースクリニック志木】

東武東上線「志木駅」東口より徒歩1分

ご予約は電話もしくはWEBより受け付けております。



市HP「令和6年度子宮頸がん検診について」
(実施医療機関も、ご覧になれます。)

【問合せ】志木市役所健康政策課 電話：048-456-5370（直通）